

## 掛川層群・堀の内層の砂泥互層について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-09-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 橋本, 隆夫 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00025767">https://doi.org/10.14945/00025767</a>

## 掛川層群・堀の内層の砂泥互層について

橋 本 隆 夫\*

掛川層群は本邦新第三紀鮮新統の一つの標準として構造や地史については多くの報告がある。筆者は砂泥互層の定量的な分類や解析についての観点から大庭<sup>(1)</sup>と掛川層群の調査を行なって来たので、その概略を報告する。

### (1) 砂泥互層の分類と分布

堀の内層砂泥互層は、砂岩とシルト岩のリズミカルな互層である。砂岩、シルト岩の厚さの割合はかなり変化するので各露頭で 10 組の単層について、砂岩とシルト岩の厚さを測定し、その厚さの割合から砂泥互層を分類し (第 1 図, 第 2 図) に示した。全体としては基底近くに砂がち互層, 上部に移るに従ってシルトが多くなり, 一種のサイクルの傾向を示す。

### (2) 砂泥互層の厚さと岩相と単層の厚さの関係について

堀の内層中では白岩凝灰岩層 ( $T_0$ ) や五百済凝灰岩層 ( $T_7$ ) の他に厚さ数  $m$  から数  $10\text{ cm}$  の凝灰岩層 ( $T_1 \sim T_6$ ) が追跡できる。 $T_1$  は基底の直上にある鍵層である。第 2 図で  $T_1$  と  $T_7$  はそれぞれ同時層と考えられるので, A~D の位置で走向に直交する方向で, この間の厚さを測定し, 各地域での岩相ごとの単層の平均の厚さを求め, 砂泥互層を構成する単層の枚数を推定した (第 3 図)。砂がち互層は最も厚く, シルトがち互層と砂泥互層はほぼ同じ厚さで, どの地域でも似た傾向を示す。したがって, 同時間内に厚く堆積した地域 (B・C) では砂がち互層も厚いが, 単層の枚数も多くなっていることがわかる。

次に各岩相ごとの単層の厚さの頻度分布 (第 4 図) では, シルトがち互層と砂泥互層はほぼ同じ傾向を示すが, 砂がち互層では単層の厚さのバラツキが大きい。

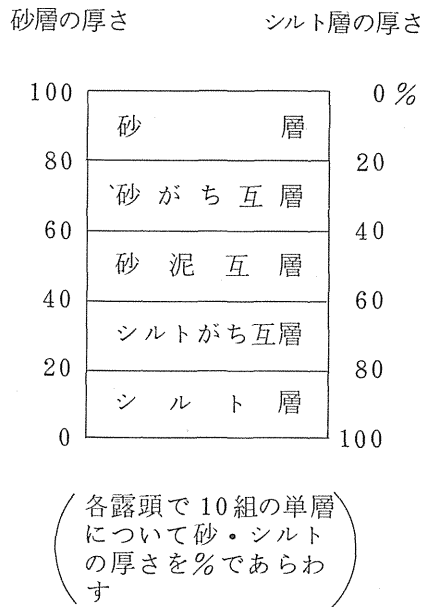
また, A~D 地域ごとに単層の厚さの分布をみると B~D は厚さ  $16 \sim 20\text{ cm}$  の単層が多い。A 地域では  $21 \sim 25\text{ cm}$  と  $11 \sim 15\text{ cm}$  の単層が多く,  $16 \sim 20\text{ cm}$  の単層はかなり少ない。野外では, A 地域付近ではシルト部分が砂層部により同時侵食され, その境界の凹凸がはげしく, 砂層部に同時れきや, 貝化石 (*Glycymeris*, *Umbonium*, *Turritella* など) の破片を多数含んでいるので, これらの砂はかなりの距離を運搬され, 同時にシルト部分をもいく分侵食しつつ堆積したのであろう。この傾向は A 地域付近で特に著るしいが, 砂がち互層と, 砂泥互層への移化部付近でもしばしばみられる。またこうした地域では砂のレンズがはさまれたり, 一枚の単層の厚さがかなり変化したり薄失したりするのが観察できる。

### (3) 文 献

- (1) 大庭陸美 (1972) 掛川層群の堆積学的研究, 静岡地学 22 号
- (2) 土 陸一 (1970) 相良, 掛川地方の地質, 静岡県地学会資料 17

\* 県立金谷高校

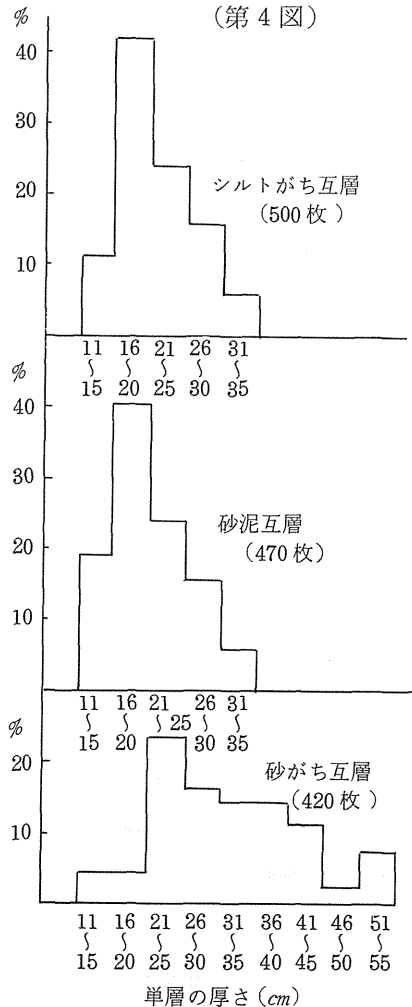
砂泥互層の分類 (第1図)



<各地域・岩相の単層の平均厚と枚数> (第3図)

互層地域	砂がち互層 (平均厚cm)	砂泥互層 (平均厚cm)	シルトがち互層 (平均厚cm)	単層の平均厚	単層の枚数
A (1950m)	31.1	19.1	22.7	24.8 (240枚)	7,750
B (3900m)	32.4	20.5	23.9	25.2 (420枚)	16,120
C (3750m)	31.7	22.0	20.3	24.2 (390枚)	16,150
D (2550m)	34.9	19.0	22.1	23.8 (350枚)	11,550
単層厚平均 (調査枚数)	32.4 (420枚)	20.2 (480枚)	22.0 (500枚)	24.5 (1,400枚)	

単層の厚さの分布 (第4図)



<堀の内層の岩相分布> (第2図)

